

角館地域審議会の意見

◎ はじめに

答申が諮問事項に対する具体の成案まで至らず、まことに遺憾でありましたが、そこに至る前段の具体策を探るための項目の抽出に止まり、絞込みを残した答申となりました。したがって「具体策を探るために検討すべき項目の提言」としてご理解いただければ幸甚です。

願わくは各抽出項目の意のあるところを参酌され、ご当局が具体的手順を探る際の参考とされるならば、実り多い果実であると思います。

なお、それぞれの文末に話合いの要旨を添えましたので、ご理解の一助にされれば幸いです。

また、意見集約の過程を総括しますと、将来人口など将来に不安が大きい課題であれば大きいほど、取組みに真摯な対応がなされなければ、実りのある成果は期待できないのではないかと、杞憂いたしました。

例えば人口3万人確保の命題が、新市建設計画の人口推計の見込み年より、割り込み年が早まる状況にありながら、市庁挙げての危機感が薄い等であります。これらは政策課題でありながら一方、平常業務の内にも対応策があり、それが意識的に各課、各部署に共通認識された業務になっていない懸念であります。

市に望むのは、そうした取り組み体制を確立し、職員の喚起を鼓舞し、もし更に充実すべきものがあるや否や見定め、体制の再構築の要ありとするならば、その手立てを切望いたします。

別紙 A

諮問事項 I 「定住人口 3 万人の確保と交流人口 1,000 万人の具体的方策について」
この課題は一見共通するテーマですが、個別に検討いたしました。

I-A 定住人口 3 万人の確保について

平成 9 年(都道府県別将来推計人口)に行われた仙北市の人口動態推計では、2010 年の人口が 30,385 人と見込まれ、現在 2007 年の仙北市エリアの人口は 31,800 人程で、平成 9 年の推計とほぼ一致しております。しかし、残念ながら 2010 年には 3 万人を割らんばかりの人口動態となっております。

この事実を真摯に受け止めて、総力をあげて「3 万人死守のプロジェクト」を立ち上げなければなりません。人口減は市の命運を左右する最大の課題と位置づけ、具体的には「2015 年 3 万人死守プロジェクト」の策定です。

各分庁舎エリア毎に、具体的数字目標を 仮に角館地区 13,500 人、田沢湖地区 11,500 人、西木地区 5,000 人 と定め、市庁挙げてプロジェクトを組み、各庁舎毎にアイデアを競い目標の完遂を目指すよう願う。

「入りを図り、出づるを制す施策」

- 地域から若年層の流出を抑制
- 地域内外からの定住者の促進
- 転出者の再転入方策

着眼点

1、人口の自然減の抑制、人口の流入の促進

人口減の要因を分析し、自然動態減に歯止めをする対策

- (ア)出生奨励—未婚男女の結婚奨励、子育て環境の見直し
- (イ)長命対策—成人病対策、健康増進事業、生きがい活動促進、
自死予防対策

2、流入人口の促進には社会動態の要因を分析し、その実態を知る

- (ウ)転入人口の奨励 — 雇用社員への住宅紹介、地元企業との情報連携、
賃住宅入居者向け空家紹介
- (エ)転出人口の抑制 — 地元雇用の斡旋、一商店一工夫の雇用増奨励、
農業経営の改変による余剰労力対策

特に農家においては、集落営農制度の普及と併せて余剰労力の就労先の確保が必要である。米以外の特産品、加工、集荷、販売分野の創業意欲の啓蒙、企業の誘致による就労場所の確保が欠かせない要件となる。企業誘致は立地を市内限定にこだわらず、広域的な立場で誘致を要請すれば、企業の信頼が得られやすく実現の可能性が高まる。

- (オ)定住人口の促進 — 空家紹介(近隣の受入歓迎体制の確立とそのPR)
冬場の雪対応、医療、教育不安対応、二地域居住利点の効用喧伝、移住者の特技奨励、〇〇特技人歓迎の受入表示、福祉ボランティア求人、活性化仕掛人要望など、心に響く PR 方法と人材活用のPR

「こんな地域に住んでみたい」と誰もが思うような、人情味の感じられる心の温かい町づくりに、地域全体で取り組むことも大事な環境づくりのひとつ。

空家情報の発信に近隣の受入態勢の実情、併せて移住者に安心感を与える冬場の雪対策、健康、医療、教育、社会福祉等の支援体制を充実させ、その魅力を説明できる体制を整える。

- (カ)転出者のふるさと回帰 — 終の棲家サポート、転出族の再転入、高齢者向け福祉農業の里づくり

一度この地に住んだことのある人、あるいはこの土地を離れた人に、再びこの地で暮らしてみたいと思わせる環境づくりと、その様な人々に対して遊休農地の活用などの地域情報を発信して、ふるさとの魅力を伝え、終の棲家サポートを末永く取り組む様子を啓蒙し理解させる。

- (キ)地元高校存続問題 — 昼間人口の確保、地域経済への影響、文教都市のアピール、馬術部高校の情報発信
高校存続問題は定住プロジェクトにとって重要課題である認識

現状の趨勢では定住3万人割れが目前に迫っており、近々の課題であり、悠長な時間の対応は避けねばならない。そのためには歯止めのできるあらゆる要因を探り、それらの総てを、あるいは重点を絞り行政と市民の共通理解のテーマとして、総力を結集しなければ目標は遠ざかる。

参 考

定住人口 3 万人確保の検討要旨

●たとえば取組みの成果として、未婚男女の結婚を 5 組実現できれば子 5 人の増が期待できるし、成人病対策によって更に 5 人の命が救えればトータルで 10 人。老人の健康増進による長命対策が効を奏すれば、長生きの郷が注目され、ふるさと回帰が促進されるかもしれない。社会問題化している自死対策にしても現状の実数半減でおよそ 10 人確保。これだけでも自然動態減の 10% に歯止めがかかる。遠くを見る施策より、まず足元を見た対策の大事が見えてくる。

●人口対策を大上段に捉える反面、これらの数値をないがしろにしてはならないし、こうした観点に目配りすることこそ、市民の幸せに直結する暖かい施策。このようにそれぞれの目標数は小さくても、手をこまねいて成り行き次第の結果を嘆くより、政策としての成果を実感し、達成感を共有することができる。そのために、市の各部署に目標をあたえ、その成果を積み上げ、反省をまとめ、次の展開を図る管理部門の充実が欠かせない。

●人口の一人減が、市の財源収入に及ぼす将来損失と、歯止め対策費のバランスを考慮し、将来展望を見据えた思い切った財政投資の検討。

●子育て支援にしても近隣市町村よりプラス格差で関心を引き付けるものがないといけないし、空き家は町なかにもあり、不動産業者との連携も必要ではないのか。30 代夫婦のアパート居住者でも割安の持家希望が適えば定住人口となるし、空き家を企業に貸して遠方からの通勤社員を住まわせ、定住への手がかりを与える。

上場している地元企業と、情報発信などの連携をふかめ市のイメージアップを。

●田舎移住関心者には空家紹介に併せて、近隣のコミュニティーサポートを理解させるソフト面の配慮も大事。熟年移住希望者にはボランティア関心を満足させる地域事情や、地域が、あなたを必要としているとのメッセージの発信。スローライフでも受身の田舎暮らしより、地域にいかに係われるかに、魅力を感じている人に照準をあわせた PR の工夫。

高齢者の田舎回帰志向には、遊休農地の活用斡旋、遊び心で可能な福祉農業体験の環境づくりを急ぎ、ユニークな仙北市の独自性を売る。

●若者流出に欠かせない雇用の場の確保は重大な施策であり、地道であっても現状の見直しから、雇用の積上げを。「一企業一商店一工夫による雇用一人増」実現の奨励によって、いささかでも雇用の確保が期待できる、実効のある対策を。

●地元両高校の存続も教育的見地からの要望プラス「市の生き残り施策の重点事項」へ格上げし、問題意識を全市民に浸透させながら、県の玄関口の疲弊が県の

総合計画に大きく影響することを理解させる。

- 故郷を離れた団塊の世代からアドバイスを。祭りに魅せられて移住された方からその後をヒントに妙案を聞く。もっともっと仙北市の宣伝を。農業の法人化に向かう時代、働く場を自ら創出させるような対策。
- TVの「家族に乾杯」が多くの人々を魅了しているのは、風光明媚な自然でもないし、特産品の提供でもなく、そこに暮らす人の生活臭が漂う雰囲気魅せられるからであろう。そこに新しい観光のヒントが潜んでいる。

別紙 B

I-B 交流人口 1,000 万人の具体的方策について

平成 18 年度の仙北市観光客数、623 万人から短期に 1,000 万人にする方策は難しい。仙北市の総力を挙げ、短期・中期・長期に渡ってより効率的な施策を効果的に実施することによって、観光客 1,000 万人に近づけるプロセスを策定。具体的方策の前に、仙北市の観光実数が 600 万人以上であるのか、再検証の要はないか。この数字がいわゆる観光統計とは別に、観光客が市にもたらす経済効果に関係するし、1,000 万が概括な目標数値から、具体数値になるときに基礎数値に揺るぎがあってはならない。

年間観光客数（宿泊客 75 万人含む）

$$623 \text{ 万人} \times 3,000 \text{ 円} = 187 \text{ 億円}$$

更に年間 1 千万人（宿泊 120 万人）の場合は

$$1,000 \text{ 万人} \times 3,000 \text{ 円} = 300 \text{ 億円}$$

と言う莫大な経済効果を上げることになる。

平成 14 年の資料による農業生産額の 68 億円に比較しても 3 倍近い数字である。基本数字がしっかりしていないと、計画を遂行するときに困難をともなうのでないか。

- 何処から、目的別、年代層別を意識した対応策
(県内、東北、関東、国内、国外、若年、熟年、老年)
- 通年観光の拡大（通過観光 → 滞留型観光 温泉・湖・武家屋敷・山里風景
・田舎人情を織込んだ物語コース）
- イベント観光の再検討（季節別、イベント別）
- 体験観光の促進（グリーンツーリズム、個人対応からグループ対応へ）

着眼点

1、既存施設（組織）を使った方策

既存の施設を効果的に使っていない場合があるのでより良い効果的な利活用を推進する。

(ア) 情報センターの情報発信基地の充実

(イ) 平福記念美術館、新潮社文学記念館 PR の全国発信

- (ウ) 武道館を各種競技の親善交流に積極的に活用
- (エ) 立町ポケットパークの利活用に工夫
- (オ) 「あなたの古里になります企画」(空き家・休耕田)の実施
- (カ) 角館の桜、祭りの駐車場確保に住民の協力要請
- (キ) 訪れた人をあたたかく迎える挨拶や、おもてなし等のふれあい活動を積極的に推し進める。
- (ク) 西長野小学校の学校教育の宿泊体験施設への転身

2、必要な施設を建設し活性化を図る方策

- (ケ) 滞在型市民農園の整備
- (コ) 屋内競技場の建設によるスポーツ交流で活性化
- (サ) 道の駅の建設により農産品と地場産業の育成
- (シ) 観光イベント館の建設
- (ス) 昔の産業遺跡の整備(日三市・坊沢鉱山跡、白岩瀬戸窯跡等)

3、広報(P R)活動による方策

- (セ) 仙北市の広告塔に「藤あや子」「山谷初男」「柳葉敏郎」等の有名人を起用し活性化を図る。
- (ソ) 県内在住者へ日暮らし観光のP Rをする。
- (タ) 地元諸団体から友好団体へのP R強化(サービス特典付き)
- (チ) ホームページ宣伝強化と「ふるさと情報誌」の発行
- (ツ) 仙北市の優良企業のP Rを強化する。
- (テ) 民謡のふるさととある事を積極的にP Rし、各種民謡大会の開催

4、農業とドッキングする方策

- (ト) 道の駅の建設により農産品と地場産業の育成
- (ナ) 体験型観光の促進(グリーンツーリズム等)
- (ニ) 蕎麦打ち体験や宿泊体験等の強化
- (ヌ) 観光客向けの農産品、農産加工品の開発
- (ネ) 西長野小学校の農業体験の宿泊施設への転身

5、市名変更についての提言

現在の市名「仙北市」は合併に伴って決まり、2年間を経過して、観光の面ではデメリットの大きさを感じず。仙北市が観光をメインに、1千万人の「交流拠点都市」を標榜して観光客を呼ぼうとする際「田沢湖・角館・西木の3町が合併してできた仙北市」と注釈を入れなければならない現状は、熾烈な観光客争奪戦のなかではハンディキャップが多すぎ

る。いずれ理解されるはずとの議論には、現状が田沢湖・角館・西木の3町の合併でできた仙北市で説明をしている限り認知が遠ざかり、マスコミ情報からは理解が浸透しにくい。今回、1千万人の観光客実現のために、市名論議の過程で検討された **角館市** **田沢湖・角館市** を再度の議論を得て、変更されると、その波及効果は計り知れない。

参 考

交流人口1千万人確保の検討要旨

- 自分の住む地域や町内を自慢げに思えるようにしていくことが、旅行者にとっても魅力になり、さらに人を呼ぶようになる。旅をする人の嗜好が「個人的な喜び」に変化している。土地の風景にふれ、言葉を交わして、そこに住む人へ旅情を抱く。
- よそ者を嫌う気質や殿様商売の対応は改めなければならない。人間性豊かな人づくり教育も、いい街づくりに欠かせない。人に優しく親切でないと他町村に誇れない。定住情報「えぐきてけだんし」は意味不明のフレーズで親しみやすさの押し売り、対面言葉で書き込み言葉ではない。
- 観光の新しいコースの創生で滞在時間延長を。滞在時間10時間の旅（田沢湖周辺10時間、神代―白岩10時間、桧木内―西木10時間の旅）これまであまり知られていない場所と、その食材を活かした食事でもてなす。
民謡のふるさとコース（生保内節、仙北おやまこ、秋田おぼこ）のストーリーを創作し地元民との交流を織込み新たな体感をさせる。
- 自分の住むところが魅力的でなければ、よそから人は呼べない。ヒューマンスケールを無視した空間に魅力を取り戻すことや、町内会単位の街づくりに視点を変え、暮す人が癒される街は、訪れた人にもやさしさが伝わる。商店街を高齢者の利用しやすい街に復活させ、街を元気にする。
- 恵まれた土地の再確認、風向明媚な自然、歴史と文化遺産、人情と地場産物、新幹線停車駅が二駅、高校が二校は他に誇れる土地。住む土地に誇りを持って語り、長期滞在型農業体験、屋内競技場で大会イベントなど、市の知名度を活かして交流人口を高める。
- 仙北市をもっと、もっと宣伝を。角館、田沢湖、西明寺など旧の呼び名で良いのでは。美しい景色や歴史のある街に住む人の温かい言葉が、訪れる人を和ませる。角館の人気の原点は何であるか、反省する要素がある。武家屋敷商店街対策は。また来たくなる街づくりになっているだろうか。駐車場確保は市民協力を。
- 交流人口は外向けの対応ばかりでなく、内向けには直接対応する人達の、マナ

一教育。地域の人々のふれあいマナー啓蒙を広め、町ぐるみ歓迎のムードを高める。みんなの理解が深まれば街の印象が格段に向上する。

●地元諸団体から友誼団体への積極 PR を協力要請、民間の団体交流拡大を促進させる。親善友好都市間交流 協力提携都市交流 JA 商工 森林など総力を結集する体制づくりを組織し、プロジェクト実現を目指す。

●5年後は全国の小中学生が対象とされる、国事業の「子供の農山漁村交流プロジェクト」に、この土地らしいユニークなプログラムで独自性を発信し、全国から注目が寄せられるよう印象づけする。

●観光立市にふさわしい観光イベント館を創設し、観光の総合発信の中核とする。「ふるさと情報誌」発信で、より新鮮な今の仙北市をアピールし、関心を高める。

●ただ見せる観光からの脱却が問われる時代。旅心をそそのかす観光受入は人とのふれあい。いかにも地元人らしい会話のやりとり。あたたかさ、観光ずれしない素朴さ、これらがあいまった心旅の土産をお持ち帰りいただければ最高。

●角館の四季イベント（桜、清流、祭り、火振り）桧木内川清流を活かしたイベントでフルシーズンの観光宣伝を。遠くの人ばかりでなく県内などから、近場の日暮し観光が出来るモデルコース。

（ものづくり体験、図書館、情報センター、パソコン、史跡、神社仏閣の組合せ）

●定住3万人、交流人口1千万は相通ずる命題であることから、仙北市総ての施策をこの一点に終結した総力戦を展開する体制が望ましい。市庁職員及び市民総体を巻き込んだ運動が出来ないものだろうか。

別紙 C

諮問事項Ⅱ 廃校舎の利活用について

学校は地域にとって愛着があるものであり、廃校になった校舎をいろいろな形で、再利用する試み案を検討した。

これまでは国の補助施設には転用に厳しい規制があり、廃校利用には条件が一部緩和されても、試み案はその範疇を超えるものがあるかもしれない。利用を対象者で分けると、地元住民向けのもの、観光客向けのもの、それに特定の目的の人向けのものがある。また、どの活用分野を対象にするかによっても観点が変わる。社会教育、福祉施設、産業振興施設それぞれの方途が考えられる。

さらに、市の重要課題、重点プロジェクトに繋がる活用がないか。そのため定住 3 万人、交流 1000 万人の具現に向けた活用方法を問うか。

角館地域においては、西長野小学校と角館東小学校の 2 校については、地域審議会委員から出された意見や要望をまとめてみると次のようになる。

着目点

両校に共通する事項として掲げたが、特に東小は市庁舎、西長野小は「交流人口 1 千万人を意識した」農業体験交流施設の活用、あるいは校舎設計の渡辺設計にユニークアイデアをさぐるのも一案。

1、地元住民向け

(ア)地域の総合利用施設（地域の活動拠点）

(イ)公民館的社会教育施設

(ウ)スポーツ施設（スポーツセンター）

(エ)研修教室<お年寄りのレクの間>

食堂、ダンス教室、カラオケスタジオ、血圧計、マッサージ器、ゲートボール場、お風呂場

<芸術作品の製作・発表の間>

2、観光客向け

(オ)体験学習（自然体験・そば打ち体験、田舎暮らし、農業の生産や食材加工の体験者の宿泊施設

(カ)博物館や資料館、アトリエ等の設置

3、特定の目的の人向け

- (キ)養成学校（看護師や介護士の養成）
- (ク)福祉施設（ディーサービスセンター）（障害者の作業施設）
- (ケ)保育園 } 放課後支援
- (コ)幼稚園 }
- (サ)学 校 —— クラブ活動
- (シ)企業・各種団体の研修施設（合宿）

(4) 角館東小学校の再利用について

- (ス)仙北市役所の本庁に活用する。
- (セ)現在の分庁方式から支所方式に変更する。

(5) まとめ

仙北市立角館東小学校と仙北市立西長野小学校の廃校舎の再利活用によって新たな文化公共施設などとして、再生させようとする計画である。これによって人々が住み、働き、遊び、憩い、集い、学ぶという、まさに複合した活動の場としての再生が目的である。

さらに、歴史ある街並みに暮らす住民は「小京都」に誇りを抱き、伝統と風土を生かした町づくりを進めている。これを機会に小野崎家、平福記念美術館、石黒家、青柳家、樺細工伝承館、岩橋家、松本家、外町をまわって、田町武家屋敷にある図書館情報センター・文学館、西宮家等、それぞれの持つ一連の機能を中心として仙北市角館町生涯学習ゾーンを形成する。

そして、廃校舎の再利用と各地域の集会所が連携し、動きのある場となるように仕向けていきたいものだ。

◎ おわりに

この諮問には市の主体的活用を離れ、総て民間に委ねたい真意であれば、相手の見えない、まったくの希望的意見を述べたにすぎない結果となる。

ここで検討すべきことは、社会的意義と市民理解が得られる活用については、財政支援もやむをえない選択であろうから、それらの意思表示と、併せて利用条件、管理経費などの大枠を示して、広く活用要望を求むべきものである。

また、両施設とも地元の意向に沿う利用に委ねる際、それが地域コミュニティー形成に、充分役立たせるために、常駐の管理人体制は欠かせない要件となる。

参 考

廃校舎利活用の検討要旨

- 仙北市内に道の駅がないので西長野小は道の駅にしてもよいのでは。建物がユ

ニークだし少し寄り道だが高台にあってロケーションも抜群。西木のかたくり館、風船館などと面白い連携が出来るかも知れない。いま、全国道の駅踏破グループなどがあると聞くから PR にもなる。

●企業の研修合宿施設、農林業体験拠点、観光の簡易宿泊施設、産業支援として企業にスペースを開放、諸団体事務所の利用。

市民の広場機能としてふれあい文化センター的利用、家庭と学校を結ぶ活用の仕方、子供スポーツセンター、市民対象自由解放施設、

●地元活用を問うても全部は手に余るし、せいぜい一部活用の要望に止まるだろう。残りをどう利用させたいか、市がどう活用するか。具体的な方針が見えていない。体育館でも市が定住3万人プロジェクトを目指す健康増進施設として積極的に活用するか、市民開放で自由に使用させるかで全く意味が違ってくる。

●市が積極的に活用しない建物で維持管理の負担だけなら、古いものは捨て、新しいものを作るべき。レンタル倉庫にして維持費をまかなう方もある。

いずれにしても、お荷物資産を、経費負担なしで維持しようと考えても、有効な利活用は望むべくもない遊休資産となる。